

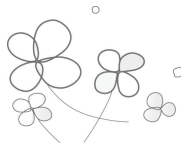


所沢市民放射線測定室「とこらぼ」ニュースレター2019年4月

発行:とこらぼ運営委員会

メールアドレス tokolabo2013@gmail.com ホームページ <http://children-foundation-tjimdo.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/tokorozwahousyasensokuteijo>



いつも「とこらぼ」にご支援いただきありがとうございます。8年目の3月11日を迎えました。1月のとこらぼ祭りには、今回初めて参加して下さる方もいらっしゃいました。時間が経っても関心を寄せて頂いていることに感謝します。活動を継続することで、様々な思いを具体的な形にする場を作っていきます。今後もお力添え、よろしく願いいたします。



<放射線測定士のつぶやき>

「とこらぼ」では、1月に「チャルカ～未来を紡ぐ糸車～」を上映しました。この映画は「核燃料サイクル」や「高レベル放射性物質」の最終処分問題などを解説した場面があり、とても大事な指摘をしていましたので、振り返ってみます。

核エネルギーによる発電(原発)は、核爆弾の材料を作るために開発されました。その後、潜水艦の動力源としても使われ、商業用の原発は、超大型になりました。

「核燃料サイクル」では現在、高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉が決まり、「プルトニウムサイクル」は出来なくなりました。そのためプルトニウム(Pu)の利用はMOX(モックス)としてウラン(U)の燃料棒とMOX燃料棒を並べてウラン用原子炉で利用するという、とても不安定な方法で無理に消費しています。

この「核燃料サイクル」の「ウラン鉱山」「精錬工場」「転換工場」「ウラン濃縮工場」「再転換工場」「再処理工場」の多くを海外に依存しています。これらからウラン燃料はほとんどが輸入した物といえます。それぞれの工程で大量の放射性物質が来ています。

「MOX燃料」 MOXは混合酸化物の英語の略称で、使用済み燃料棒を再処理によってプルトニウム・ウラン混合酸化物燃料にしたものです。このときに、大量の高レベル放射性廃棄物が出ます。

「高レベル放射性物質」の最終処分は、日本では北海道幌延町と岐阜県瑞浪市に最終処分研究施設があり、調査研究を行っています。ここの地元との約束は、研究の終了後は坑道を埋め戻す事になっています。世界では唯一、フィンランドのオンカロに、使われた核燃料の地層処分設備があります。ここは、花崗岩の岩盤と言われ18億年前から動いていないそうですが、花崗岩はマグマが地中深くで冷え固まった岩石と言われています。地中深くから地表に出てきたわけですから、本当に安定した岩盤なのか疑問です。

《気になる食材を公開測定》

公開測定は、気を付けたい旬のものや気になる産地で取れた食材の中から選んで行います。今回、気を付けたい食材としてキノコ類のエリンギ、椎茸、マッシュルーム、お茶。気になる産地として千葉県産のものを選びました。

この時期、スーパーや産直店に千葉県産人参・長野県産エリンギ、千葉県産マッシュルーム、埼玉県産菌床シイタケが出回っていました。残念ながら前回検出されなかった菌床シイタケが今回は検出となりました。菌床用のおがくずが関係していると思われます。

茶葉も検出しやすい食材なので毎年県内産のものを継続測定していますが、今回は場所を変えて静岡県産を測りました。県内産が5ベクレルにも満たないのに対して3倍強の結果でした。この茶葉を、飲料用として測定したところ検出下限値以下で不検出とはなりませんでした。

このように気を付けたい食材を購入し、測定して皆さんにお伝えできることはとても意義のある活動だと思っています。食材購入費用は、維持会員様の会費を当てさせて頂いています。有り難いことに今年も沢山の方に会員になって頂けたのでこの活動が続けられます。これからも測定依頼のすき間をぬって、公開測定を行っていきたいと思います。皆様からも気になる食材がありましたら、リクエストしてください。

※それぞれの詳しい測定結果は別紙「測定結果一覧表」をご覧ください。

《映画と交流会で盛大だった「とらぼ」祭り》

お陰様で1月27日とらぼ祭りが盛大に行われました。

六周年を記念して午前と午後の二回、「チャルカ～未来を紡ぐ糸車～」を上映しました。

映画は、原発を稼働すれば必ず発生する核のゴミ問題に迫る作品です。日本には高レベル放射性廃棄物の地層処分研究施設が北海道と岐阜にあります。特に北海道の幌延町近くに住む久世さん一家の酪農と工房を営みながら原発のない社会を紡ぎ出す生き方が紹介されていました。

海外ではフィンランドとフランスでの使用済み核燃料の保管についての紹介がありました。日本に比べて圧倒的に地震の少ないフィンランドにおいては地底奥深く保管しようとしているが、無毒化するまで10万年～100万年の歳月を要するため、未来に住む人に向けて保管場所をどの様にしたら伝えられるか思案している様子でした。

現在稼働している原子力発電所で毎日発生している核のゴミを一体どこに保管するのか、私たちに投げかけてくれました。

その後の交流会では感想をシェアしたり、原発クイズで盛り上がりました。

〈参加者の感想から〉

・原発を動かすことで出る核廃棄物の地層処理について、初めて知りました。フィンランドのオンカロでは、頑丈な岩盤の中で地震がほとんどないところに埋めるのと比べ、地震多発で軟弱な地質の中に埋めようとしている日本の違いがありました。

・北海道の研究所の方が後世のために負担を少しでも減らすために研究が必要といていたが、そういう認識があるのならば、まずはすべての原発を止めるべきだと強く思いました。

・イトつむぎのように毎日子どもに向き合ったり、しっかり生活していくことで命のバトンを繋げていくことが今の私にできることなのかなと感じました。

・北海道の豊富町で酪農とアイス・チーズの工房を営む久世さん一家の暮らしと自給の村に福島を養育を受け入れる取り組みをしていることに感動しました。

・「自給」という生き方(100%でなくとも)をもっと選びやすい世の中になってほしいですね。

・ヨーロッパでは比較的、核廃棄物が管理されているように感じました。その中でも賛成反対に分かれるような問題なのに、日本はうやむやにされ、関心が薄れていく現状を悲しく感じました。



(とらぼ祭りでの交流会の様子)

【とらぼ利用者の声】

二人のお子さんのお母さんである山田陽子さん（所沢市）からの投稿です。
とらぼのイベントに親子でよく参加してくださいませ。

私と「とらぼ」との出会いは、別の市民測定所の方に講習依頼をしたことです。所沢にも市民測定所があるから、と紹介していただいたのです。

市内とはいえ、我が家から離れた場所に測定所があったので、気になりつつもなかなか行けずについて、初めて訪れるきっかけになったのは「福島生きものの記録」という映画の上映会でした。子連れで行ける映画、ということで参加してみたものの、当時5歳の息子には少し難しいかもしれないと心配していました。ところが意外にも、息子は終盤まで熱心に観ていました。帰宅してからも息子の探求心はおさまらず、質問攻め。5歳の子供もこんなに考えることができるのだなあと感心しました。その後も上映会があれば参加して映画を鑑賞し、監督がいらっしゃった際には直接質問もさせていただき、良い経験を重ねさせていただいています。

息子が生まれる少し前に起こったこと、どのように伝えればよいのか迷っていた私ですが、映画を観たり、とらぼに関わらせていただいたりすることで、親子で原子力発電について、事故について話すきっかけをもらっています。

原発事故への関心がどんどん薄れていく中で、こういった測定所が存在してくれていることはとても心強いです。これからも色々な世代の人たちが集って情報を共有できる場所であってほしいです。



◎「とらぼ」では以下のような業務をお手伝いしてくれる方を随時募集しています。

測定スタッフ//測定補助・受付手伝い//公園土壌調査プロジェクトスタッフ//公開測定メンバー
ご自宅やご自宅周辺でできる作業もありますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせください。

メール：tokolabo2013@gmail.com 電話：080-6257-2306

◎とらぼメーリングリストに登録しませんか？

公開測定のご案内や結果速報、イベント情報を随時発信しています。登録ご希望の方は、上記メールアドレスに「メーリングリスト登録希望」と書いてお送りください。